

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
自我	集団の中に並べられた(並んだ)ような自分。並べられた経験の合総計としての自分・そう並べてつくった自分。	大きくなった自分を感ずる(時間的並び)。次への教訓を持つ。いろいろな人間関係(場)の中で自分が多面的に。比較・競争。「今好きなこと」屋さん	変身する・したい自分。交互に交代して教えあう関係。	《集団的自己》の誕生 いつもと変わらない自分の肯定。 対の関係を捉えて強く自己決定する(ギャンブルエイジ)。一元的な評価を強制されるといじめなど。	自-他の関係をつくりなおそうとする。丸が閉じすぎると、グループ間の対立や大人への反抗。	《社会的自分》のきざし 2つの世界をつなげない時に矛盾に陥り、問題がおこりやすい。 外部の「裏」は、自分に跳ね返って、次の「心の小箱」を内面につくる。
可逆操作	3次元可逆操作 3つ以上を)並べて行き来する力。(同じものを並べる→ちがうものを並べる;空間的→時間的) →(並べたもの)を並べる(系列化) recollection 回想	3次元可逆操作の充実 ちがう場に並べて行き来する力(場も並べてい	飛躍的移行期(可逆対操作)・1次元変換形成 同じとちがいに 変身する力(同じものが、形を変えても同じ)	1次元変換可逆操作 →1次元変換形成 同じとちがいに1 変身していく力(系列化) 同じとちがいに2 二重視する力(そのものの形は変わらないが...。Aと見えるだけではない、Bとも見える)→二重視していく力(系列化)	2次元変換形成 サイクルをつくる力(系列化したものが出発点にぐるっと回って戻り、一つの世界をまとめる)裏の別世界を覗く力(もつと大きなものと二重うつし・實のちがう二重視)2つめの見方との関係は不安定。	2次元変換可逆操作 裏の世界と元の世界をつないで行き来する力① 大いなる世界の代表としてのあこがれが流れ込む。立候補する(中学生の発達構造の先行裏返し)のきざし②(クマノエ)③ 普遍と個別をつなぐ特殊の操作(高校生)の発達構造のきざし③
対心単元例	がび、足し算(はじめ+作業=結果)、繰り上がり計算(となりとの関係)のめづえ	繰り上がり繰り下がりの計算。カキ算のめづえ	かけ算、量の保存、教えらるゝ教えられる人間関係、別の表現、グラフ	総合学習「川」。単位の交換(量)。論理と正義に基づいてまとめる。本質-現象のめづえ	ゴミのリサイクル、水の三態、水の循環、食物連鎖、生産-流通-消費面積、倍と割合	憲法人権)比例関係生物界と人間本質(法則)と現象 書いていることを支えに、書いていないことから深い現実を読もうとする。
エクリの關係	書いたことと経験が並べられる。			読んだことが現実の中に探され、実現する。		

※ 「可逆操作」=外界の世界をとり入れ、新しい活動をつくりだし、そうすることで、自らの内面を豊かにする営みにおける基本操作(おもてなしを可能にする)の操作

参考: 田中昌人『子どもの発達と健康教育1~4』かもがわ出版、1988~2002年。  
服部敬子『第3章 成長の自覚、成長への期待』、落合幸子編著『小学2年生の心理』大日本図書、2000年。

3重